

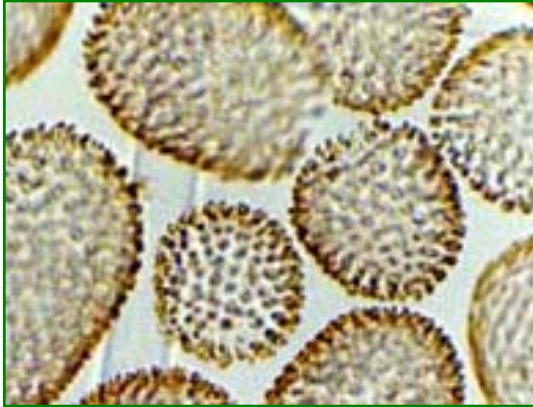
瀬田川プランクトン調査結果速報

～第36報～

滋賀県立衛生環境センター
琵琶湖水質担当
平成15年12月8日

1. 最も数が多かった種類（優占種）

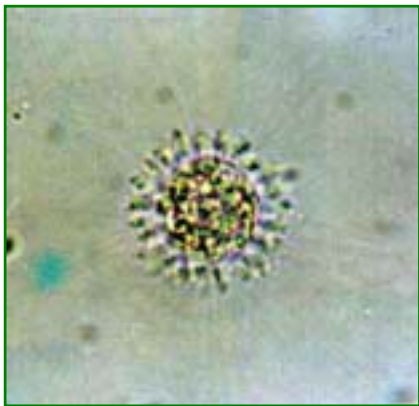
植物プランクトン第1優占種



Uroglena americana
(ウログレナ)
黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



Acanthocystis chaetophora
(アcantキスチス)
太陽虫類

体は球形で多くの偽足を放射状に出している。小型の太陽虫で軸足が非常に長いのが特徴である。

コメント

植物プランクトンは、先週に引き続き淡水赤潮の原因となるウログレナが多かった。また、珪藻や緑藻、黄色鞭毛藻などの種類数も多かった。動物プランクトンは、太陽虫やハネウデワムシが多く見られた。この太陽虫は、コカラタイヨウチュウと呼ばれ、体は珪質の小片で覆われ、小片には1本の細長い突起があるのが特徴である。

2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
肉質虫類	<i>Acanthocystis chaetophora</i>	800

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	380

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

(2) 植物プランクトン

平成15年12月8日

第36報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	1400		
(黄鞭) <i>Dinobryon divergens</i>	4		
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	20		
(黄鞭) <i>Mallomonas fastigata</i>	40		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i> f. <i>spiralis</i>	55		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	70		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	61		
(珪) <i>Synedra acus</i>	10		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	10		
(渦) <i>Peridinium berolinense</i>	30		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	80		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	640		
(緑) <i>Eudorina elegans</i>	64		
(緑) <i>Tetraspora lacustris</i>	80		
(緑) <i>Oocystis solitaria</i>	40		
(緑) <i>Mougeotia</i> sp.	45		
(緑) <i>Closterium gracile</i>	1		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	8		
(緑) <i>Staurastrum</i> sp.	1		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	1464	55.1	27.6
(珪) 珪藻綱	206	7.7	3.2
(渦) 渦鞭毛藻綱	30	1.1	0.3
(褐) 褐色鞭毛藻綱	720	27.1	9.2
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	239	9.0	59.6
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	2659	総体積	2.66E+06
種類数	19	(μm^3)	

注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)

ただし*印の種は群体数(群体/ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位:%)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。